

茨城県南部におけるハシボソガラスとハシブトガラスの繁殖生態

○吉田保志子・百瀬浩・山口恭弘（中央農研・鳥獣害研究室）

カラス類は、農業被害の報告において被害面積、被害量ともに鳥類の中で最大である。カラス類による被害は対象作物や時期が多岐にわたるため、被害軽減には生息地管理等による長期的な個体群管理が必要と考えられるが、そのためには繁殖率などの基礎的情報が不可欠である。そこで、茨城県南部の平地農業地域および住宅地と森林において、ハシボソガラスとハシブトガラス（以下ボソ、ブト）の繁殖状況を調査し、繁殖の経過や成功率を明らかにした。

つくば市周辺の南北 31 k m 東西 15 k m の範囲に、畑を中心として水田・集落・林が混在する調査地 2 ヶ所（12 k m²、20 k m²）、水田を中心として集落が混在する調査地 1 ヶ所（12 k m²）、および、比較のために住宅地の多い調査地 1 ヶ所（8 k m²）、ほぼ全域が森林の調査地 1 ヶ所（6 k m²）の合計 5 ヶ所 58 k m² を選定し、両種の繁殖期である 2005 年 2 月下旬から 8 月上旬にかけて、自動車、自転車、または徒歩により 4～6 回、くまなく巡回し巣および繁殖行動（巣の見張り、巣材運び、餌運び、ヒナ連れ家族等）の発見に努めた。調査期間中の平日は、ほぼ毎日いずれかの調査地において調査を行った。

初めて巣材運びを確認したのはボソでは 2 月 23 日、ブトでは 3 月 11 日であった。抱卵（抱雛を含む）している個体が見られたのはボソでは 3 月 25 日から 5 月 9 日にかけて、ブトでは 4 月 5 日から 5 月 19 日にかけてであった。巣立ちヒナを初めて確認したのはボソでは 5 月 6 日、ブトでは 5 月 18 日であった。現在のところもっとも遅い巣立ちはボソ 7 月 6 日頃、ブト 7 月 20 日頃である。繁殖の経過は、ボソに比べてブトのほうが約 2 週間遅いと考えられた。巣立ちに成功し、ヒナ数が確認できた巣での平均巣立ちヒナ数はボソ 2.4 羽（範囲 1～5 羽）、ブト 2.7 羽（範囲 1～4 羽）であった（7 月までの調査に基づく暫定値）。今後、最終的な巣立ちの有無を確認するとともに、環境条件と繁殖成功との関係についても解析し報告する。